

# テニスで培ったバランス感覚で クライアアントの期待に込めていく。



樹音建築設計事務所 住見寿喜氏（三六歳）

イメージ通りのプレーができてこそ一流。  
居心地が良い空間づくりも  
住む人の生涯をイメージすることからはじまる。

取材撮影／高橋恵子

ニスクールの外部コーチをするようになる。  
ところが、練習中、手首を痛めてしまふ。苦しいリハビリを乗り越え、現役に復帰こそしたが、テニスのコーチを目指す事は、当時諦めるしかなかったのだ。その様な経験からか、七歳の息子、心平君には、取材中とても分かりやすくテニスを教えていたのが印象的だった。  
現在もテニスを続けている住見さんは、「テニスは試合に勝つだけでは、満足しませんよ。イメージ通りのプレーができるかできないかがポイントですね。設計は住む人になりつつある」。住む人とお互いに納得した上で、職人さん達も自慢で

きるようなものを造りあげる事により一体感が生まれる。  
テニスには技術力、精神力等のバランス感覚が重要。「建築の設計は、幅広い知識や発想力等の柔軟なバランス感覚を持つことで、クライアアントの期待に応えられる家づくりができる。住む人の生涯をイメージすることにより全部を満たしながら、住む人の期待を超えるものをつくる。そういう点ではテニスと、家づくりのバランス感覚は、似ているかもしれない」。



## 住見寿喜（宮城県仙台市青葉区）

1973年愛媛県生まれ／1996年日本大学工学部建築学科卒業／1998年日本大学大学院工学研究科修了後、株式会社みちのく設計、有限会社ササキ設計を経て、2002年樹音建築設計事務所設立

- ① 試合で大事な事は、「自分のパフォーマンスが一番発揮できる状態に、身体、メンタルをもっていくことですね」と話す住見さん。
- ② フォアのハイボレーを確実に決め、ガッツポーズの住見さん。
- ③ サービスエースで、鋭いコースを狙う住見さん。
- ④ 息子さんに、テニスのフォームについて分かりやすく丁寧に説明をする住見さん。
- ⑤ 息子さんには、「将来的にはテニスを通じて経験できる様々な事を、自分の体験として学んでほしいと願っています」と話しながら、仲良くポーズを決める住見さんと息子さん。

